

★好況が続く東京湾のヒガンフグ。良型交じりで楽しめる今がチャンス

微細なアタリを掛ける楽しみ 湾フグはヒガンフグの好期!

東京湾奥浦安出船 撮影・本誌編集部



★当日最大38センチのヒガンフグ



▲釣り場は東京湾奥一帯の水深5〜20メートル前後



▲魚が海面まで浮いてきた竿を立てて抜き上げる

▲小さなアタリを逃すまいと釣り人の視線は穂先に集中する
▶チラシ仕掛けはエサバりに食ってくる人が多い



▲当日9尾を釣り上げて竿頭

▶手返しよく釣ることが数をのばすコツ
▼良型が釣れてひと安心



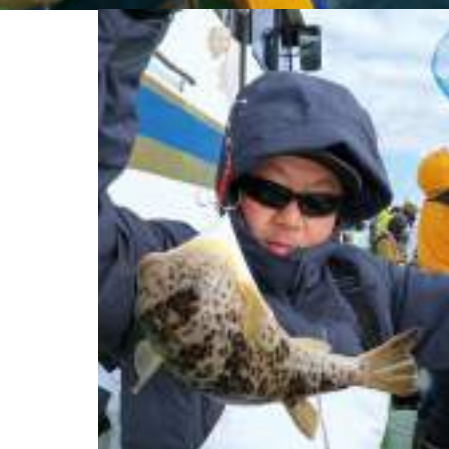
▲群れの濃い場所に入り連発
▶当日は20〜25センチ前後がよく釣れた
▼ヒットしたら一定の速度で巻き上げてくる



▲湾フグは女性ファンも多い
◀仕掛けはスタンダードなカットウとチラシバリの2種類。オモリ10号
▶エサはアルゼンチンアカエビ



▲アタリを取って掛けるのがだいご味
◀ビギナーでもこのとおり
▼35センチを超えると引きも強烈



▲掛かりに気を付けて楽しもう
▶小さなアタリを見逃さないことが大切

「湾フグ」と呼ばれる東京湾のフグ釣りはシウサイフグ、ヒガンフグ、トラフグと船宿ごとに狙うフグの種類や釣り場が変わるが、アタリを取って掛ける面白さは変わらない。

1月上旬に取材した東京湾奥浦安の吉久ではヒガンフグ狙いで出船。釣り場は湾奥一帯の水深5〜20メートル前後。護岸際など根周りを探り、20〜30センチを主体に35センチ前後の良型交じりでトップ10尾前後の釣れ具合。

湾フグ釣りといえはカットウ仕掛けが定番だが、ヒガンフグ狙いは根掛かりの多い場所を攻めることから大澤船長はチラシ仕掛けをすすめている。

(詳細は46ページ参照)



▲空合わせを入れると誘いにもなる

